

# 高齢者共同住宅見学勉強会

## チエツクポイントなど 体験しながら学ぶ

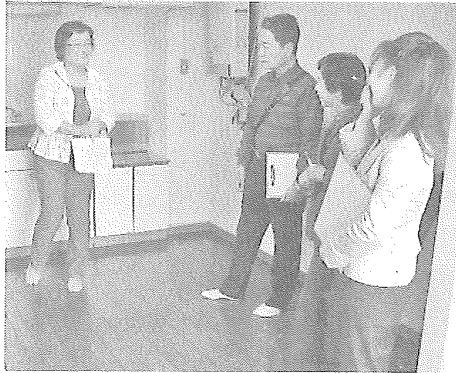
高齢者の新たな住まいとして注目が集まる高齢者共同住宅の見学方法を実際に体験しながら学べるよう、NPO法人シーズネットの札幌・住まいるアップセンターは「高齢者共同住宅見学勉強会」を実施している。高齢者や家族の見る目を育てるだけでなく、高齢者住宅運営者が利用者ニーズを直接把握できる機会にもなるなど「見学」は大きなキーワードだ。

「見学に行った際、住宅を運営している方と話す機会があったら、どのような理念や思いで運営しているか聞いてください」「入居されている方への職員さんの対応も見てくださいね」

見学先に向かう車内では見学のポイントが説明され、今回二回目となる参加者からは「私たちが気づかないことを説明してくれるので助かります。一人よりも見学しやすい」という声が聞かれた。同法人は札幌市から委託を受け、高齢者住宅選びの分かりやすい情報提供や仕組みづくりなどを目的に「安心・快適住まいるアップ事業」を行っている。二十二年度実施した入居者アンケートでは約三割の人が「入居前に

### 「札幌・住まいるアップ」シーズネット

見学していない」とし、「現在の住宅だけ見学」は約四割を占めた。こうした実態を受け、見学の重要性や見聞きするポイントを知ってもらうと、見学の場を設けている。本年度は市内高齢者住宅十件対象に午前・午後の二回、五月二十五日から今月十七日まで計二十回実施する。



実際に居室を訪れ、日当たりやベッド配置などを確認し札幌市白石区・楽明館ほんごう

定員は一回六人、一日午前中に行われた見学勉強会には将来の住まい先を考えている高齢夫婦と、市外で暮らす親の入居先を探している女性が参加した。見学先までの移動中に行う「車内セミナー」では、入居費用や入居者同士の交流などチエツクポイントをアドバイス。近隣の雰囲気も感じ取れるようにスパー、金融機関などの位置関係を伝えながら見学先へ向かった。見学先に到着すると高齢者住宅運営者から特徴など説明を受け、実際に居室等を見学。参加者は「食事を食べなかつた場合の料金はどうなるんですか」「途中で退居した場合の費用は」と聞いた。これらの質問は車内セミナーで説明を受けたチエツクポイントの内容だ。参加者を案内した同センターの我妻実香さん(ケアマネ)は、入居

可能な状態や具合が悪くなつた時の通院など参加者が聞き漏らしたことを代わりに質問。専門用語は参加者が理解できる言葉に置き換えて伝えていた。見学会を終えた参加者は「探すと、いろいろあることを知りました。足を運ばないと分かりませぬ。また参加したい」とこやかに表情を浮かべた。我妻さんは「初めて見学する時は居室や設備など見るところに目が行きがちですが、二回目以降になると実際に住んでみたらと考えるようになり、より具体的にイメージできるようになります。ある程度希望を絞り込んで見学することも必要です」と話している。

「私たちが気づかないことを説明してくれるので助かります。一人よりも見学しやすい」という声が聞かれた。同法人は札幌市から委託を受け、高齢者住宅選びの分かりやすい情報提供や仕組みづくりなどを目的に「安心・快適住まいるアップ事業」を行っている。二十二年度実施した入居者アンケートでは約三割の人が「入居前に実際に居室を訪れ、日当たりやベッド配置などを確認し札幌市白石区・楽明館ほんごう」